

Ⅱ 令和3年度 学校に関するアンケート（学校評価）結果の分析

1 生徒対象アンケートから

(1) 学校生活全般について（各学年）

1 学年

全般的には真面目に学校生活に取り組んでいると考えられる。ただ学習面においては、基礎学力の定着が不十分だと思われる。特に家庭での学習習慣が身についておらず、学校と家庭の連携がより必要になる。またコロナ下で行事等が中止・縮小され、部活動の制限なども加わり、人間関係の構築や基本的な生活習慣が確立されていない生徒も散見される。よりきめの細かい指導が不可欠である。

2 学年

生徒は、学習をはじめとする学校生活に真面目に取り組んでいる姿勢がみられるが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学校行事の削減などにより、高校生活の充実感が得にくい状況にあると言える。また、学習面において、家庭学習の不足、応用力の伸長や知的好奇心の満足度などに比較的低い評価がみられる。今後はより一層、授業改善や学校行事の改善により、生徒の基礎学力の向上、学校生活の満足度の向上に努める必要がある。

3 学年

肯定的回答が他学年に比べ、低い項目が多い。56 期生は第 1 学年時に新型コロナウイルスの学校への影響がある前を経験しているため、現在の様々な制限下の状況にストレスを感じているのかもしれない。

進路決定を控えた最終学年のため、授業内容の理解や家庭学習の習慣に関しては高い値を示している。一方で授業内容や進路指導に関しては低い評価が多く、生徒のニーズの確認とアプローチ方法などの再検討も必要である。

(2) 学習面について（教務部）

今年度は学習に関する項目は軒並み、肯定的な解答が増加した。項目 4「私は、授業内容がよく理解できる」は昨年度に比べ 6.4%増加し、項目 8「授業は、基礎学力の定着に役立っている」が 3.8%、項目 9「授業は、応用力の伸長に役立っている」は 6.3%、それらに伴う形で項目 11「私は、国分高校の授業に進んで参加できている」も 3.0%と伸びがみられる。生徒は授業が自らの学力に繋がっている実感を持ち、積極的に取り組む様子が数値に出ている。また、項目 6「国分高校の先生は、生徒が積極的に授業に参加できるように工夫している」は 3.7%、項目 7「国分高校の先生は分かりやすい教え方をしている」では 7.0%も上がった。職員に対しても肯定的である。

しかし、国分高校の課題となっている、項目 5「私は、家庭学習の習慣が身に付いている」は、やはり例年の傾向が顕著で、学年が上がるにつれて数値が大きくなる。1, 2 年生へ家庭学習の習慣付けが課題である。

全体的に 1 年生の数値が高いのが印象に残る。長い目で見る必要があるだろう。

(3) 進路に向けた取組について（進路指導部）

進路指導に関する項目に対しては、肯定的な回答が多い。項目 12「私は、自分の進路を意識して勉強している」は、前年比 4.3 ポイント上昇の 75.8 ポイントであり、学年が高くなるにつれて肯定的回答が増える傾向にある。

項目 13「国分高校は進路指導に力を入れている」は、学年全体では前年比 3.9 ポイント上昇の 78.1 ポイントだったが、項目 12 とは逆に学年が高くなるにつれて肯定的回答が低くなっている。学校以外に進路指導してくれる場（塾・予備校）の利用の他、生徒が進路については自分で考えて行動するようになってきたことが考えられる。

(4) 生活面について（生徒指導部）

生徒指導に関する項目に関しては、昨年同様肯定的な回答が多く、80%を超えているものがほとんどである。項目 14「私は、国分高校の校則や社会のルールを守って行動している」は92%と、昨年より上昇しているのは喜ばしいことである。しかし、ルールの本来の意義を理解し、他者への思いやりを持って行動できるという点においては、今年度も十分とは言えず、時々近隣から苦情やご指摘を頂いた。社会の一員としての自覚を育てる指導は継続的に行わなくてはならない。

項目 3「国分高校の学校行事・生徒会行事は充実している」は昨年度より 8.7 ポイント下がった。生徒が充実感を感じている行事である合唱祭が中止、文化祭・体育祭は大幅に縮小して実施したことが影響していると思われる。このコロナ禍で、どのような行事運営をしていくべきか、学校全体で模索していかなくてはならない。

項目 18「国分高校の部活動は活発である」は 89.1%と高い水準を保っている。昨年度は下がったが、今年度は上昇した。東京オリンピックなどの影響もあり、顧問が求めている、目標を持って努力することの大切さに再び気付いてきたように思われる。

(5) 校内整備・健康管理について（管理厚生部）

一番気になったのは項目 23 の「私は、自分の健康管理に十分留意している」が、わずかながら前年度を下回ったことである。コロナ感染予防に日夜学校をあげて取り組んでいるにもかかわらず、なぜ 1.1%も下がるのか、また、受験を控えた 3 学年が 90%未満であることも気になる。保護者とも連携し、あらゆる機会をとらえて指導していきたい。

項目 21 の「私は、きちんと清掃活動を行っている」、項目 22 の「私は、校内におけるゴミの分別に協力している」は多少ではあるが向上してきており、一層の啓発活動などを行ってきたい。しかし、項目 21「私は、きちんと清掃活動を行っている」に関しては、95.2%の高い肯定的回答をしているのではあるが、現状とのギャップを感じるところもあり、指導を徹底していきたい。

(6) 渉外・PTA活動等について（総務部）

項目 3「国分高校の学校行事・生徒会行事は充実している」については、不完全燃焼で不満に思っている生徒が増えているのは理解できる。

2 保護者対象アンケートから

(1) 学校生活全般について（各学年）

1 学年

学校の様子が保護者にきちんと伝わっていないところがある。例年なら合唱祭や文化祭、体育祭などで、保護者も学校の様子を知る機会があったが、現行ではそれが難しく、保護者に見えづらい部分が大きかったような気がする。学校の HP や一斉メール、学年通信、担任からの様々な連絡等を増やすことにより、より理解を深める必要があると思う。

また気軽に相談できるような体制作りをより進めていくことが必要である。

2 学年

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保護者の方が学校を訪れる機会が著しく減少しており、生徒の学校での様子や P T A 活動などについても理解が得にくい状況である。ホームページへの掲載や一斉メールによる配信などを通じて、生徒の学校生活が保護者の方にもよくわかるように更なる努力が必要である。

3 学年

概ね生徒と同じ傾向である。

項目5「学校は家庭への連絡や情報提供を細かく行っている」は良い評価を受けており、担任の先生を中心に、きめ細やかな連絡をしてくださっている様子が伺える。一方で、項目19「学校のHPをよく見ている」は34.4%と低く、こちらの周知徹底が必要である。例えばその日の連絡事項などを日常的にUPすることなどにより、担任の先生の負担を減らしていくことも可能なのではないかと思う。

生活習慣や生徒指導の項目では良い評価を受けており、生活指導の先生を中心とした学年の生徒指導体制が効果的であると思われる。これを維持しつつ、教育相談的な部分についてもより力を入れ、生徒指導と教育相談の両輪をバランスよく運営していくことが必要であると思われる。

(2) 学習面について (教務部)

項目10「学校の1年から3年までの教科・科目は子どもの進路実現に向けた授業が行われている」が1.0%、項目11「学校では学力向上に向けた授業が行われている」は3.0%の伸びと、概ね例年通りの結果となった。項目10「学校の1年から3年までの教科・科目は子どもの進路実現に対応したものになっている」は学年が上がるにつれて数値が下がる結果となっているが、学年間の差があまりなく安定している。広く学ぶことで人間性を涵養するという立場を踏まえながら、生徒の進路を見据えた授業の選択を促していきたい。また、項目12「私の子どもは、家庭学習の時間を確保し、自主的に学習する態度ができています」も0.5%下がったが昨年とほぼ変わらない。学年が進行するにつれて数が伸びるという生徒対象のアンケート結果と同様の結果となった。コロナ渦で家庭学習の時間が増加していることもある。家庭での学習習慣定着への措置として、インターネット等を利用した課題配信などを活用することを推進する。

(3) 進路に向けた取組について (進路指導部)

肯定的な回答が多い。項目10「学校の1年から3年までの教科・科目は子どもの進路実現に対応したものになっている」の肯定的回答は、前年比1.0ポイント上昇の74.1ポイントであり、学年が上がるに連れて下がる傾向にある。受験に必要な教科・科目を求めるためであろう。

項目13「学校は生徒の進路目標の達成に向け、適切に指導している」は、前年比1.6ポイント上がり、70.0ポイント。学年が上がるにつれて肯定的な回答が増えるのは、保護者の学校への期待度が高まっているからか。

(4) 生活面について (生徒指導部)

生徒対象アンケート同様に肯定的回答が多い。項目14「学校の生徒は、基本的な生活習慣(挨拶・規範意識・生活の見直し等)が身につけている」、項目15「学校は日常的に頭髪、服装等について、きめ細かい生徒指導が行われている」では上昇している。各学年の学年集会での全体指導、各場面での個別指導が丁寧に行われているためと思われる。

項目4「学校の部活動は充実したものになっている」では昨年ほどではないが、わずかに下がり、70%台で前半ある。否定的な回答は、より活発で競技力の向上を目指す場合と、レクリエーション的な活動を望む場合の二通りが考えられる。顧問はその両面で苦慮しているが、従来のように、生徒が高い目標を持ち、それに向かって、顧問と共に努力していく理想的な形になって欲しい。

項目20「学校相談窓口があることを知っているか」では約10%上昇した。積極的な広報活動が効果を上げている。

(5) 校内整備・健康管理について (管理厚生部)

項目17「学校は清掃美化や環境整備が十分に行われている」は、昨年度比2.4%向上し、76.5%であった。しかし、昨年度と同様、生徒に比べて肯定的回答が少ない。清掃活動等の意義を理解させ、指導を行っていく。

設備面では、昨年度同様、多額の予算を要するものは、すぐにといいわけにはいかないが、あきらめずに要望を出し続けていきたいと思う。

今年度は項目6「コロナ禍においても、工夫して学校行事を実施している」が新たに設けられているが、昨年度よりも規模の縮小や期間の短縮などの方法をとって、行事の実施数は昨年よりも多くなってきた事が反映し、80%弱の比較的高評価を得ている。実施にあたっては、感染予防対策を強化しなければいけないため、担当部署としては冷や冷やししながら、といった場面もあったが、なんとか乗り切れた事への評価と捉えている。

(6) 渉外・PTA活動等について（総務部）

項目5の「学校は家庭への連絡や情報提供をきめ細かく行っている」については66.6%が肯定的回答となっているが、やや低い数字である。学校側からの配布物が保護者に渡っていないこともあり、対策が必要である。

項目7「学校のPTA活動は活発に行われている」については、今年度もほぼ常任委員の方々のみの活動となった。

3 教職員対象アンケートから

(1) 学校生活全般について（各学年）

1 学年

どの職員もきめ細かい指導を実践していると実感している。ただこのコロナ禍の中で十分な指導が行えないのも現実である。特に現1年生は様々な行事なども経験しておらず、責任感、協調性、コミュニケーション能力を培う場面が少なく、それらが十分でない生徒も多い。集団としての意識を高めるために、学習面・生活面で、より細かい指導をしていきたい。

2 学年

どの項目についても肯定的な回答が多いが、やはり新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学校行事の削減や授業における多くの制約により、生徒への十分な指導が行えないことに蟠りを感じている職員が多いようである。

3 学年

解答者数が65名だと1人の解答が約1.5%にあたるため、昨年比などは参考程度に考えた。

例年のことだが「本校生徒は…」の項目への評価が低く、裏返せば職員の生徒への期待の高さを感じる。

(2) 学習面について（教務部）

項目10「本校生徒の授業態度は良好である」、項目11「本校生徒は基礎基本を着実に身に付け、学力が向上している」、項目12「本校の生徒は自学自習の習慣が身に付いており、学習意欲が高まっている」においてはわずかな上下はあるが、昨年とほぼ同数である。生徒の学力の定着や学習意欲があがったと実感するには、職員と生徒の双方が授業をよりよいものにしていくという意識を持った取組が必要である。常に授業の改善や工夫を行っているところではあるが、教科、学年と連携などして取り組み、手立てを講じる必要もある。

(3) 進路に向けた取組について（進路指導部）

項目13「本校では1学年から発達段階に即した系統的・計画的な進路指導が展開されている」では、肯定的な回答が84.6ポイントと高い評価を得ている。教職員が協力して生徒の進路実現に取り組んでいるからであろう。

(4) 生活面について（生徒指導部）

項目4「本校生徒は校訓「自主・自律」にふさわしく、生き生きと学校生活を送っている」、

項目 14「本校生徒は、基本的な生活習慣（挨拶、規範意識、服装・頭髪、生活の見直し等）が身についている」では肯定的な回答が 70%程である。やはり数名の遅刻する生徒や、自覚に欠ける生徒への指導に苦慮している結果と思われる。項目 16「本校の教職員は、共通理解のもとに生徒指導に取り組んでいる」は 57%と数年前より上昇しているが、改善していかなくてはならない値である。価値観の異なる職員個々の意見を尊重しながら、理想の形を模索していきたい。

(5) 校内整備・健康管理について（管理厚生部）

項目 19「本校では生徒が怪我や事故のない学校生活を送ることができるよう、健康・安全指導が適切に行っている」は、昨年度より 1.4%ダウンの 95.4%となった。決して低い数字ではないのだが、コロナ禍のことを考えると毎回向上し、かぎりなく 100%に近づくべきだと考える。

教員側にもコロナに対する危機感や取り組む姿勢に温度差が見受けられ、項目 16「本校の教職員は、共通理解のもと生徒指導に取り組んでいる」の 56.9%の中で、どのように共通理解・共通行動がとれるのか、今後さらに検討していかなければならない。

また、感染予防対策やグッズもまだまだ十分とは言えず、何とかこれまで感染者による休校などを回避してきたわけであるが、感染力の強いオミクロン株が主流となる事は確実なので、今後何ができるのかについて検討を重ねていきたい。

項目 20「国分高校の校舎内外の清掃等は行き届いている」においては、1.0%減少の 87.7%であり、生徒の 95.2%とは大きな開きがある。清掃については生徒の意識が向上するような方策を考えていきたい。

(6) 渉外・PTA活動等について（総務部）

項目 3「本校は学校相互、地域社会、関係機関との協力体制が確立されている」については、同窓会との連携は順調であった。

項目 5「私の所属している学年・分掌では、会議は教育活動の計画・実践・評価の場として有効に活用されている」において、総務部での会議・計画・実践・評価は必要の無い仕事等の見直しをして、順調にうまく機能していると思われる。